

9

36

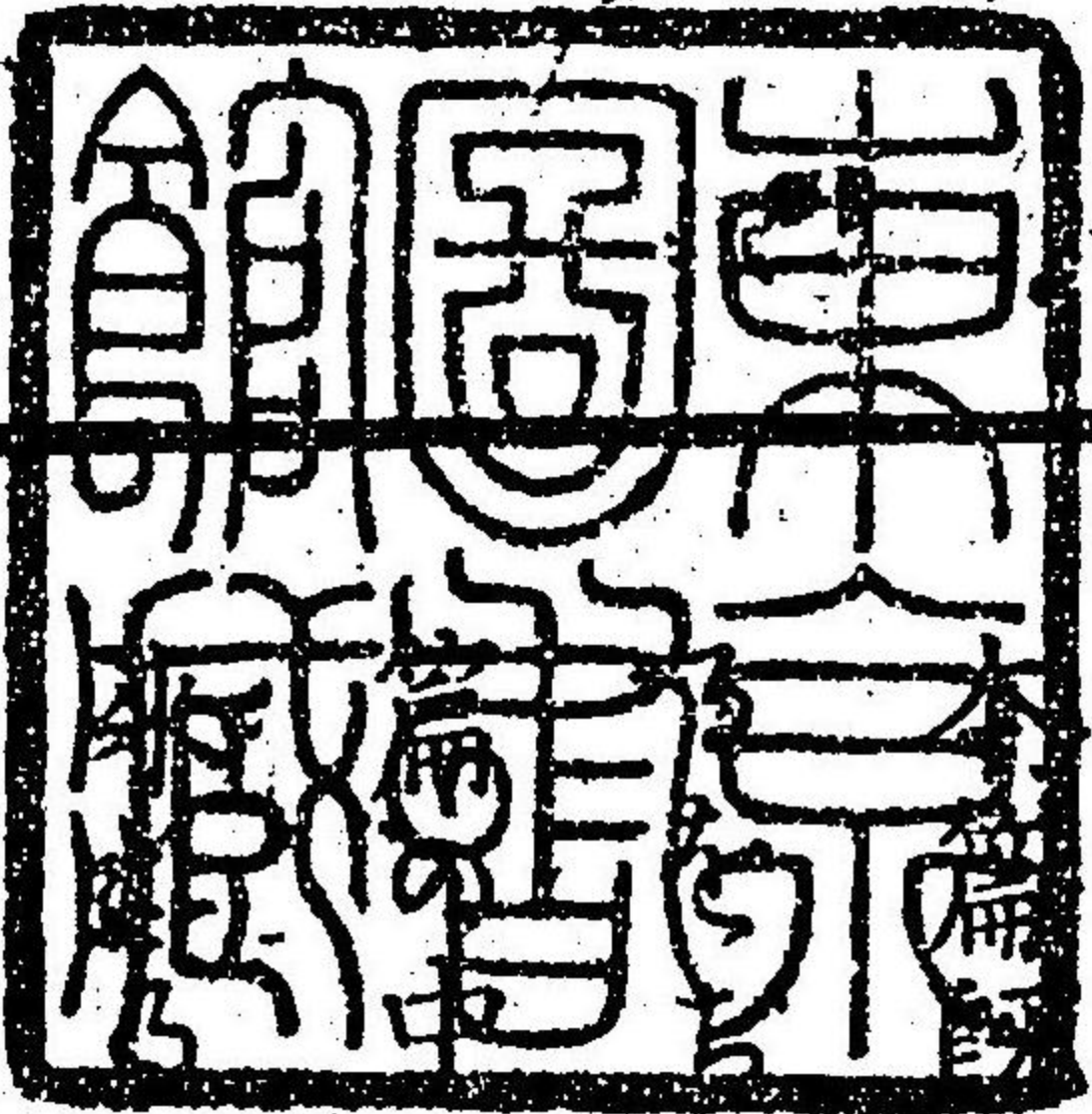
東 京 圖 書 館

冊	号	架	函	屬	類
4	20	10	10		

葬儀式別記

全

12 4356



葬儀式別記

神道管長從四位稻葉正邦 著

大教正正七位 權田直助 識

不結をて一たび筆を間き一のやも猶あらび思ゆ
 少うらび。今こゝ不摘出でいふべし。それ本
 おもひへる如く新撰定をたらまた漢語不稱へ
 を國語不引直せる名目なやハ杜撰不強ひごやせ
 家如く思ふもあるべくまゝ拜拍手なやも古法不違へり
 なや疑ふもあるべきのやれこゝろ志らひふて其の證徴
 をあげてこゝ不辨へは多證號撰格祝詞誄辭の作例を

げて、便をのらゝるむせし

新小撰定せる名目せも

喪家をもやせなづけけしこや ころもあるひへせりふ意ふ
てなづけけあり。その物炊くひへを炊屋火を炬くひくを火
炬屋なやひへる小ならへり

假喪屋をかりもやせなづけけしこや 喪屋ハ神代紀ハ天若
彦ヒコの死シりし條タテマテ不見えそ八日八夜喪モ不仕ソコふる為タメ不設セけし
屋イヘおてすあハちもをするひへなり。天皇のら之を殯宮フナミヤせ
稱ナヅケして御代ミコトこの紀不見えあるが如し。今ハ其の喪屋モヤ不
倣ナラひて假カ不設セくる故ユ不然なづけけしなり。喪屋モヤやくなくは

同ドウトトきハ大宮内オホミヤノウチ不身屋モミヤや母屋モヤやあるが如し。同名異物の

例ハ御門ミカド朝廷テウテイ帝ミカドまも官省ツカサキ察司サツシまた祠ホコラ神庫シムクラ正倉ホウクラの類甚多

殯室フナシマを何ナニらニきキのまやひへるこや 殯フナシマ宮ミヤの殯フナシマなり。室シマを

まやひへるハ御座ミマ間マ鬼キ間マ額カ間マなやのまなり。さるを問乃
字ジを當アてテばしシて室シマの字ジを傍ナリへヘるら其の實字マコト知らせた
るなり

玄關ソノノをはひりや名づけしこや ころ全く強ツヨクひて名づけた

るなり。抑オシ玄關ソノノの字ハ中山玉櫃ナカヤマタマクビ經キヨ不道フミチ以ヨリ真正マコト為ナリ玄關ソノノ專精センセイ
為ナリ要路ヨウロやあるぞ始ハジメあるべき。又傳灯デンドウ録ロク不フ法師ホウシ者シヤ云イハく啓キ

鑿玄關開盤若妙門や見えたり。按ふふ、其の本道家ふ出で
て、佛子ふ移、まろ名ふて、玄妙の關門や、いふ義ふやあらむ。
さまば、佛家ふハさもいふべけれや、官家ふてら、さといふべ
きふハあらざるべし。この故ふ、こゝ此語ふ轉一言ハむや
しても、言ふこやをえざるなり。今の世ふ、玄關や、いふハ、唯
表の入口の飾りのみふて、別ある義あるふあらむ。さて、最
表乃入口をバ、門や、いへるを、其の内北室の入口をバ、何や
のいひけむ。古くは、ひりや、いへるや、やがて、玄關を、いへる
ふら、あらどら。後撰集ふ、妹が家の、はひりふ植てら、青柳ふ、
今や啼くらむ、鶯の聲。また、堀川百首ふ、柴の屋は、はひり乃

庭ふ、おく蚊火の、煙りうろさき、夏の夕暮なやあるハ、門を
り屋の内へ入るまでの所を、いふや、先哲の説かれらるハ、
さもあるべくや。然るま、今一きざみ、押上せて考ふるふ、後
撰の歌ハ、妹が家の、はひりの前ふ植てら、柳堀川百首のハ、
柴乃屋のはひり乃前の庭を見ても、通ゆべきふや。そハ、萬
葉集ふ、吾門之淺茅色就、まゝ、和加く都乃以都母等夜奈枳
なや門やのみ、いへれやも、自然門の外は、こや、聞ゆるま
も思ふべし。故今、玄關の義をバ、除けおきて、志ばらく、はひ
りやを、いふこや、こゝな一つ

齋主をいひぬ、いふこや、神武天皇紀ふ、勅道臣命、今

以高皇產靈尊朕親作顯齋用汝爲齋主授以嚴媛之號也
り。これ此の職名乃據やとるなり。こハ普通ふもひり
副齋主をひはひのすけやなづけこや 神祇大副をかむ
づらさのおわいすけ少副をすないすけやひくふ従れ
り。いはひら齋主のいはひなり
祓主をはらへぬこハ普通ふもひり
祓師調饌師裝束師等をはらへみけしをひやり
と皆職掌みえり。然して師ハ古く土物を作る者を土師
やひひ薬もて病を療むる者を薬師やひふみえり。師と
借字めて爲の義あり

典儀をこやありびや賛者をこやくりびやいへるも職掌
みえり。然してひやハ彼の天若彦が喪ふ仕へ者ふ御
食人宗人なやいふあり。今それみ従れり

葬事大使はりのおわづらひハ齋主の命を承けて喪家ふ
使して葬事ふ仕ふる職なれば然名づけたるあり。他ふ出
で仕ふる者や使やひふら按察使觀察使宇佐使なやあ
り。今これみ従へり。大ハ上の大副の大ふ同く少ふ對へ
てひふなり

葬事少使はりのそひづらひハ少と大ふ對してハすくな
きやひふづきやそひやひくると語の便りみ従へるなり

喪主もぬゝハ、喪も、事小就きて以ひ、主ハ齋主、被主の主小同
ト。字ハ朱氏家禮小取れり

喪婦も免ハ、喪主の妻なれば以ふなり。これも家禮小ハ主婦
也あり

喪事長もをさハ、喪事ハ、事小就きて以ひ、長ハ、着督長をかぎ
のをさ也、以へる小従ふ。家禮小、護喪也、いふも是なり

喪事補もをさのそひハ、補助の義小也、きり

製造長ものつくりねをさ製造人ものつくりびや、送葬整列
者はふりのつらや、のへびやなど、皆職掌小就きて、新小
設けたる名なり。をさ、ひやなど、ハ既小辨へるが如し

揖をぬやび、拜ををろがみ又をがみ也、以へるこ也、ぬやび
ハ、ぬやぶ、ぬやぶる、ぬやぶれ也、活く詞小て、敬ぶる乃義、禮
を軽くするを以ふ。繼體天皇紀小、禮賢也、あり。同義なり。を
ろがみハ折り屈む義小て、禮を重くするなり。揖ハ、字書小
手著胸、曰、揖、也、いひ拜、首至地也、也、あり。こも禮の輕重を分
てるこ也、同トきなり

低頭をうなづく也、以へるこ也、うなづくハ類聚名義抄小、
領ツクナ、低頭なり。又、和訓栞小うなづく、點頭を以ふ、項築の
義なり也、あり、諾ふと、を形もて志らするを以ふ。竹取物
語、蓬萊の玉、小翁云く、かへさむこ也、以ややす、をうなづ

きをり。玉蔓ウナふを心さりニくやうなづく。夢浮橋
二十オふイげふやうなづくなぞあるも、その義なり。今ハ諾ふ
意をバ取らばて、項築ツツまた低頭ヒ也やある形狀をやりて、事
ふ就かむやする意を、形狀もて知らずるかた不用う
敬禮をかこみずやハへるこや 神武天皇紀オトシふ第磯城キ慄
然改容ガカシ曰臣聞天壓神至旦夕畏懼オホカシや見え應神天皇紀オ天
皇於是看御友別コ、ニ懂惶侍奉之狀トモやもありて、敬禮するさま
ふハへるハふ從へト

著座チヤクふくらむハつク、復座フクをくらむハかへるハやハへるハこや、
座ハ字書サふ位也やあり。和ふワクラハ井や訓み來れり。故今コく
らむハ云くやハいハふハなり。

膝進ハひハどハすハみハ膝退ハをハひハぎハ志ハぞハきハやハいハへハるハこハや
もや作行サふハつハきてハ當ハてハたるハ字ハならハ故ハふハ字ハのハまハふハやハな
ふハるハなり。立退タテたち志チぞキもト同ト

物名モノふハ齋ハみやハいハふハ言ハをかハらハせハてハいハへハるハこハやハら、大殿祭
の詞ノふハ齋ハ齋ハ齋ハ齋ハ齋ハ柱ハなハぞハいハへハるハふハとハれハり

拜拍子

拜を再拜ハ四拜ハ不定ハ免ハたりハこハや、あづハ拜ハのハこハやハハ、古事記穴
穗宮ホ安ホク康ク乃段ノ段オホふハ大日下王オホ比ヒ四拜ヨみハ坐ハ志ハこハや、又都夫良
意美イのハ八度ヤ拜オみハこハやハ見ハえハたりハ。そをハ古事記傳四十の卷

はれたる。按ふ所、古書に見えたる趣き、種々なれど、其の概略は、四度や八度や見え多し。然るを、今二度や四度や定免たるハ、江家次第一の卷、四方拜の條、本朝之風、四度拜、神、仍之、兩段、本是、再拜也。而爲異、三寶及人庶、四度拜之、仍稱兩段也。やあるハ、本朝も、本、再拜なれども、三寶、また、庶人の再拜するを、それや異ならむが爲、兩段再拜や定免たる趣、不聞え、また、當今、普通も叶へるをもて、然定免たるなり。

拍手を四つや八つや不定免たること

記傳四十二の卷

トトコト一言主神手打受其捧物やある下の傳、本より拜む

も拍、禮事ふや、さて、手を拍つ數の定まりたるは、やゝ後の事なるべし。其乃數の事ハ、貞觀儀式、大嘗會儀式、拍、手、四度、度別、八遍、神語所謂八開手是也。や見え、大神宮式、拍、手、再拜、兩段、短拍、手、兩段、膝進、再拜、兩段、短拍、手、兩段、一拜。大神宮儀式帳、拍、手、四段、拜、奉、短手、二段、拍、一段、拜、又更、四段、拜、奉、短手、二段、拍、一段、拜、奉、畢、また、四度、拜、奉、手、四段、拍、又、後、四度、拜、奉、手、四段、拍、畢、また、四段、拜、奉、八開手、拍、短手、一段、拍、拜、奉、又、更、四段、拜、奉、八開手、拍、短手、一段、拍、即、一段、拜、奉、なを見えあり。まづ、八開手や、拍、手、四度、度別、八遍、やあるハ、八つと四度、合せて、三十二拍、を云ふ如く、聞ゆべきも、所謂

八開手是也。云へは、一度ハ八つぢぢ拍を云へる
み、四度合せたるを云ふ。非但然まバ、八つ拍つを、八
開手云ふなり。さて、短手ハ、八開手の半ふて、四つ拍つ
を云ふ。然まバ、短手二段あるハ、四つぢぢ二段ふて、即ハ
開手の數なるを、八開手云ハ、四つぢぢ二段ふて、四つ拍つ
りて拍つゆゑなるべし。又、たゞ手四段あるハ、短手四段
ふて、合せて十六なり。又、上ふ引ける書も、ふ、拍手、
のみあるも、短手一段ふて、四つ拍つなり。拍手、一度ある
も、同じ。たゞ一つ拍つふハ、あらじ。さて、大神宮年中行事ハ
云へる、拜ハ、拜八度、手兩端あり。端ハ段なり。これも、一段

ふ四つぢぢふて、兩段ハ合せて八つなり。さて、拜八度ある
ると、四度拜二段を云へるふて、其の四度一段ぢぢ手ハ
八つぢぢ拍ちて、合せて十六なり。今世も是ハ依て、四度拜
みて、手八つ拍ちて、膝退して、又、四度拜み、手八つ拍ち、後手
を拍つなりや、荒木田、經雅神主云ハ、きたり。後手ハ、後ハ
拍を云ふ。右の拜式、又、儀式帳ハ見えたる、同ト云なり
や、以てれあり。其の中ハ、拍手四度、度別、八遍、神語所謂八開
手、是也。以て、唯手を八つ拍つと云ふと聞えざれや
も、三十二拍つと云ふて、ハ、さる事あるべしや、も思え
ど。か、あらく、小疑し、きこやなり。さる故ハ、今ハ、八開手ハ

言ハゞして、たゞ手を開きて八つ拍つ事ヤ、短手をもた
ゞ手を四つ拍つことヤ、定免つ。今普通不行ハるゝも大の
た然り

謚號撰格

謚號の事ハ別ニ委レクハハむヤ、すまざるも、此所ニも、少言ハ
ざれば、便惡レげなきバ、唯、其の格例を示さむヤ

謚號の品、六つニ分つ

一つニハ命、二つニハ君、三つニハ大人貴、四つニハ彦姫、五つ
みニハ老翁、大刀、自少壯、きハ大郎子、大郎女、幼稚、きハ若子、少女
六つニハ老叟、刀、自少壯、きハ郎子、郎女、幼稚、きハ童男、童女ナ

り。こを、人品ニ隨ひて、分ちて贈る法ハ

皇族ハハ命、大臣ハハ君、勅任ハハ大人貴、奏任ハハ華族ハハ彦
姫、判任ハハ士族ハハ老翁、大刀、自、庶人ハハ老叟、刀、自を以てす
るを定格ヤ、然して、世ニ功績ハあるもの、一等、もレくハ二
等を上ニせて贈るべし。但、上ニすヤ、も、君までを限りヤ

謚號を撰ぶ例を十種ニ分つ

一つニハ尊稱ナリ。神皇御大高主根ハの類ハを以テふ。但、神
皇御の三つニハ皇族ハハ限るコトヤ、す。其の他ハ廣く用う
二つニハ美稱ナリ。玉、眞若別、太活足、豊美の類ハを以テふ。これ
も上ニ同トく廣く用ゐてよ

三つふら徳識なり。こと心明ふ、行ひ高き人を柱奇、知賢長な
ぎの語をもて稱ふるをいふ

四つふら功業なり。こら世ふありし間此功業ふ従りて、語を
撰ぶをいふ

五つふら職掌なり。官私をいはい。世ふ在りし間ふ、身ふ負擔
ちて、勤勞きたりし事ふつけて、語を撰ぶをいふ

六つふら性質なり。實直忠誠速健の類ひ、其の爲人ふつける
語をもて稱ふるをいふ

七つふら容貌なり。こら月花ふ寄せ玉ふ擬へ、あるハ、和照映
妙なぎの語をもて稱ふるをいふ

八つふら居處なり。里小里、其の所は山川原野丘岳等の名を
もて稱ふるをいふ

九つふら時節なり。春ハ霞若艸花梅柳夏ハ苗橘菖青葉秋ハ
月紅葉露積冬ハ雪霜米冬艸の類をもて、稱ふるをいふ

十つふら發語なり。珠衣玉簾玉襪新玉梓弓の類ひを冒らす
をいふなり

右いづきも神名ふ徴して、類を分ちて考定せり。ことなふ別
ふくハ一く録さむやすきバ、今ハ唯、其の格例を擧ぐ。こまを
準據やして、其の分ふ應へて、古語を撰びて綴成し、さて上の
六品の稱號を加へて謚號やすべし

祝詞作例

凡、祝詞は、神の御前ニ白ク詞ヲなれば、いづきニも、語を文ヲなして美シくシらむコトを要スむべし。今亡靈ノ前ニ白クも同シくこの故ニ、通常ノ文ハ、句ヲ作りも、語勢モ異ナリ。通常ノ文ハ、平語もて書きつゞくる故ニ、句ノ短キ字法也シ。祝詞ハ綾語ヲもてする故ニ、句ノ長キを厭ハズ。語勢モまた緊急ナリ。式ノ祈年祭ノ詞乃如キ、二句三句ヲもて、篇ヲを成セるものあるハ、此ノ故ナリ。綾語ハ、發語モあれども、まづ、對語、疊語、重語ノ三つナリ。これハ連對、雙對、短對、三對、精對、粗對、其ノ他、變格ノ一格等ノ別あり。疊語モ種々ノ別あり。事繁重けきハ、上ハ

いへる三種ヲのみ分てり。さて、其ノ詞ハもハ符ヲ施してて初學示し、其ノ例ハ ○ハ對語 ●ハ疊語 ㄥハ對語、疊語ノ上下乃界 ㄥハ連對、連疊ノ界 、ハ重語ナリ さてまた、助字ノ加へぎま、古文其乃法也シ。今、これヲも示さまねし、これヲも、事長けきハ、略きつこと、次々と志す文ハ、其ノ書きがまを見て辨ふべし

祓除詞

カケマクモカシコキカミイサナガノミトツクシノヒカノ多クノヲドノスガハラニ
掛久麻毛 畏支 神伊邪那岐命筑紫乃日向乃橘乃小門乃檍原尔
禊祓比 給比之時尔生坐世留祓戸四柱乃大神等乃御前遙尔

畏美畏美毛白左久。此乃家内尔在里登在雷罪穢乎朝乃御霧
夕乃御霧乎朝風夕風乃吹拂布事乃如久此乃祓除尔祓得志
米清米得志米給反登畏美畏美毛白寸

遷靈詞

發語姓 乃老翁乃靈乃前尔白左久老翁波毛惜之久身退里

坐之奴雷愛介久此乃世乎去坐之奴雷 姓名親族等乃請之乃

任尔齋主斗之葬儀仕奉良久所聞食世斗白寸如此所聞食之

汝靈魂乎此乃家内尔祭奉里鎮奉里斗此乃靈爾遷奉

良万ソノワガガマラララケクシメテ荒魂和魂分知給
志登其乃行事仕奉良久平氣久所聞召之斗荒魂和魂分知給
比互移里給比雷里給倍登白寸

鎮祭詞

此乃小床乎拂比清米互招奉里坐奉雷姓 乃老翁乃靈前尔

白左久汝老翁乃世尔坐之之間乃御功德乎千名乃大名尔遠

永尔稱奉良牟御名斗之 謚號 斗謚奉里天此乃靈屋尔

齋鎮奉里天禮代斗供奉雷宇豆乃幣帛乎安幣帛乃足幣帛登

御心毛多親尔饗介給比互此乃家乃守護神斗此乃靈屋尔常

磐^{トハニシマ}尔^{リマシテ}鎮座坐之^ト豆^ヨ夜^ノ乃^モ守^リ里^日乃^モ守^リ里^ニ尔^{マモリ}守^{サキハ}幸^{ハタマ}反^{ハト}給^{マラス}反^ス登^{マラス}白^フ寸^サ事^ト
乃^ノ由^{ヨシ}乎^キ所^シ聞^メ食^セ世^ト登^{マラス}白^フ須^ス

終祭詞

此ハ亡靈を慰念、幽冥へ送る意を主として、悲哀の
方々傍々して書くべきなり

發語姓 乃老翁乃靈前尔齋主 姓名 白左久老翁波毛素與
利其乃性質直久忠實尔坐之豆國乃爲尔身乎委彌道乃爲尔
心乎盡之賜比官波勅任尔至利位波正四位乎極坐志世

乃有^イ功^サ人^ラ尔^{ビト}坐^ニマ^シ之^シ介^ハ親^カ族^{カラ}朋^モ友^ガ波^チ更^ハ奈^サ里^ナ相^シ識^レ礼^ル雷^チ遠^チ近^チ乃^{ヒト}人^ト等^モ
尔^ニ至^イ迄^テ尔^ア阿^ハ波^レ禮^ヨ世^ノ乃^ト遠^ト人^ト世^ノ乃^ト長^ト人^ト斗^ト毛^ト坐^マ之^セ斗^セ可^シ相^シ共^シ尔^ニ思^カ兼^カ
祿^ネ都^ダ在^リ利^ケ介^ル然^シ有^レ礼^ド抒^モ現^ウ見^ソ乃^ノ世^ヨ波^ハ波^ハ可^ナ奈^ク久^ク天^テ此^レ乃^ノ明^キ治^カ乃^ノ何^カ
年 乃去尔之三月乃半與利开花乃春斗志無久苦瀬尔落知天
病卧之都坐之介照月乃秋乎毛待賜波受此乃月日乃日齡
年 尔之逝水乃還良奴如久入月乃不見雷如久隱去尔坐
志ハ惜之登惜之哀之登哀之斗謂之倍斯在礼婆前尔告奉里
波ハ惜之登惜之哀之登哀之斗謂之倍斯在礼婆前尔告奉里
如久謚號乎謚號 登稱奉里終乃御祭仕奉之豆今日乃御饗

登供奉留物波御酒波甕邊高知里甕腹滿並倍天大野原尔生
物波甘菜辛菜大海原尔住物波緒乃廣物緒乃狹物與都藻邊
都藻尔至迄尔横山乃如久置足之天供奉里樂人等尔笛吹可
米鼓鼓多志御心乎慰奉良久樂之斗見行之甘之登所聞食之
諾賜反登白須斯天此典里老翁我入立知坐左年幽界波之八
十乃垆路斗遙介可礼貴支神畏支神乃神集利坐寸所山川草
木乎始米照映比互美之支所諸乃眼耀久珍寶乃多有留所意
乃隨尔事物乃足波不所斗所聞礼婆惑事無凶猶豫不事無久

唯一道尔思定米豆伊行支到坐世又政事乃嚴重尔賞罰乃明
介支所斗所聞留乎老翁波素与里清久正之久忠誠尔功勳之
久坐之介神乃御心尔毛應比互正之支神乃列尔入坐之天
永久幸福比乎得賜比奈思量利奉良留然神斗成坐之天前尔
此乃家乃靈屋尔坐奉里鎮奉利之汝我分靈斗力乎戮世心乎
一世天此乃家内親族禍都日乃禍事無久煩大人乃煩無久末
遠永仁令榮米賜反登白須辭別介互白左久出立世奉良年威
儀物整頓比奴親族諸御供仕奉利齋主姓名齋部諸乎率天

○葦儀式別記

○十五

誘導^{ミチビキ}文^キ奉^{マツ}利^リ天^テ御^ミ墓^{ハカドコロ}所^ヘ反^{オカリ}送^リ奉^{マツ}良^{ラム}牟^ト仕^カ奉^{マツ}良^ク久^ク所^キ聞^{コシ}食^メ之^シ天^テ御^ミ心^{ココロ}
毛^モ穩^{オビ}尔^ニ出^イ立^タ知^チ坐^マ世^セ斗^ト白^マ須^ス

埋葬祭詞

謚號

乃^ノ靈^{ミタマ}前^{マヘ}尔^ニ白^マ左^サ久^ク御^ミ葬^{ハナ}儀^ト斗^シ之^テ種^{タネ}く乃^ノ行^{ユク}粧^{ホヒ}物^{モノ}持^{モチ}列^{ツラ}

並^ナ米^メ天^テ誘^ミ導^{ナヒ}伎^キ奉^{マツ}利^リ守^モ護^リ里^リ奉^{マツ}利^リ豆^マ此^コ乃^ノ葬^{ハナ}場^バ尔^ニ大^{オホ}枢^{ヒギ}乎^ヲ昇^{カキ}居^ス惠^エ
奉^{マツ}里^リ天^テ御^ミ酒^キ御^ミ食^ケ種^{タネ}く乃^ノ物^{モノ}乎^ヲ供^{マツ}奉^リ里^リ天^テ告^ツ奉^{マツ}良^ク久^ク如^カ此^ク居^ス置^エ支^キ
奉^{マツ}雷^ル大^{オホ}枢^{ヒギ}乎^ヲ婆^バ親^{ウカラ}族^{カラ}寄^{ヨリ}集^ド比^ヒ天^テ慎^シ美^ミ尔^ニ慎^シ美^ミ手^テ母^モ柔^ヤ尔^ニ持^{モチ}擔^ニ比^ヒ天^テ
豫^カ祜^ネ天^テ代^ヨ乃^ノ墓^{ハカドコロ}地^ニ尔^ニ修^ツ成^ナ世^{セル}雷^{オツ}奥^キ城^ニ尔^ニ丁^ネ寧^モ尔^ニ嚴^オ重^ソ尔^ニ厚^オ久^ク固^{カタ}

久^ク藏^{カク}奉^{マツ}利^リ理^リ奉^{マツ}良^ク牟^ト仕^カ奉^{マツ}良^ク久^ク所^キ聞^{コシ}食^メ之^シ諾^ク比^ヒ賜^{タマ}反^ハ斗^ト白^マ寸^ス

葬後靈祭詞

此^{コレ}乃^ノ小^コ床^{トド}尔^ニ坐^マ奉^{マツ}里^リ齋^{イヒ}奉^{マツ}雷^ル謚^シ號^シ乃^ノ靈^{ミタマ}前^{マヘ}尔^ニ白^マ左^サ久^ク今^イ之^{マシ}

葬^{ハナ}乃^ノ禮^レ事^シ洩^シ事^シ無^ク久^ク落^オ雷^ル事^{コト}無^ク久^ク事^{コト}畢^{ハツ}反^{ハツ}部^{レバ}後^{アト}取^{トリ}收^メ米^メ豆^テ被^{ハラ}比^ヒ清^{キヨ}

米^メ豆^テ御^ミ祭^{マツ}仕^カ奉^{マツ}雷^ル天^テ御^ミ酒^キ御^ミ饌^ケ洗^ア米^メ堅^カ鹽^{シホ}鏡^{カガミ}餅^{モチ}甘^{アマ}菜^ナ辛^{カラ}菜^ナ大^{オホ}魚^{ウマ}小^コ

魚^{ウマ}尔^ニ至^イ雷^ル迄^マ尔^ニ百^{ヒャク}取^ト乃^ノ机^{ツク}尔^ニ置^オ足^キ波^ハ之^ナ供^{マツ}奉^ル雷^ル乎^ヲ甘^{ウマ}良^ラ尔^ニ安^{ヤス}良^ラ尔^ニ

所^キ聞^{コシ}食^メ之^シ天^テ此^コ乃^ノ家^{イヘ}乃^ノ守^マ護^{モリ}神^{ガミ}斗^ト坐^マ之^シ天^テ家^{イヘ}内^{ウチ}上^{カミ}我^ガ上^{カミ}下^{シモ}我^ガ下^{シモ}尔^ニ

至^イ雷^ル迄^マ尔^ニ恙^{ツマ}之^シ伎^キ事^{コト}無^ク久^ク煩^{ワザ}之^シ支^サ事^{コト}無^ク久^ク五^イ十^カ檀^シ八^ヤ桑^{クハ}枝^エ乃^ノ如^ノ久^ク

立榮タチノカ之エシメ相集アヒツク反ハル雷カミナリ親族等ヤクドモ乃ナラ行末ユキノヘ幸久サキク時々トキトキ乃ノ御祭美ミツリノミ之久シク仕シタ
奉マツル之ノ米コメ給タマフ反ハト斗ト白マラス寸ス

詩辭シモノゴト

誄辭シモノゴトの書カまざまま、全祝詞ミツクノリトも同ド。然シテ祝詞ハ亡ナキ
靈カミを慰ナグむるコト主ミナや、これハ哀慕カナシクふを要ヒコすべし。
天皇乃御喪ミコノミナシハ、宮内ミヤノウチの事を誄シぶ、大政官オホシラサキ此事コトを誄シ
ぶ、法官ヒトの事を誄シぶ、理官リノカミの事を誄シぶ、此類コノルイ、さまざま
ありさまなり。されど、そハ、天朝アマツマカド乃事コトや、今イマハ、亡ナキ

人の出自ヒトノモト、成立ナリタリ功業イサヲを稱タテマげ、次ツギハ、哀傷カナシク、次ツギハ、送葬ハフリの
奉仕ツカへがまなやうにつづくべし。

言イハ麻マ久ク忌モ之ノ伎キ、
姓セイ乃老翁ノオキナハ乃靈前ノミコノマヘ亦ニ白左久マササク老翁オキナハ波毛ハモ靈幸タマキ

神乃御幸カミノミサキ尔依里ニヨリ天去テイニシ之シ、
年號月日 姓名 名翁 乃真名子ノマナゴト登生出トビイ

天テハ、名ナ乎ヲ幼名トナモ斗ト奈ナ謂マシ之ケル介素ミト與里ヨリ忠直マメ仁雄ニラ志支シキ性質サガ尔ニ

坐マ之シ天子テ斗ト阿者アルモノ乃道乎ノミチヲ違カ反ヘ受ウケ懇切コニチ尔ニ父母ハ尔事ニコト反ヘ家業イノノリ乎助ヲク

介ケ天テ怠惰オコタル雷事カミノコト無久ナク曾坐マシ之ケル介成人ミトノナリ里坐マシ之ケル互ニ、
年號月 老翁年オキナトシ

年トシ齡ナヒ乃時ノトキ住所ジヤウソ乃ノ姓名セイメイ乃次女ノオトメ乎迎ヲムカ反ヘ天妻アマツマツ斗之トノ同ド文モノ月日ツキヒ

父翁乃讓里乎受介天家督乎繼賜比其典里以來彌益々尔雄
心振起之家乃業乎修米家乃衰反乎興之心乎誠尔志行事乎
正之他乃愁反乎聞波天共仁憂反他乃喜乎見天波共仁悅
比物尔附介事尔附介私心乎思波受專内外乃裨益斗成良牟
事乎心志勤勞美給比支故世乃聞延毛宜可里介
年号月日

官職 尔任左礼又、年号月日 官職 尔進美位 尔叙左礼

賜比支其以後、年号月 病尔因里天仕乎致米男名 尔家督
乎讓利身安久心樂之久物備里事足良比老乎養比都在之介

然寸我現世乃風習波免礼坐也左受有里介 年號 秋 乃始米與

御心氣不例受不平美坐之介男名 乎始米親族打集比月頃

相親米雷醫師尔請比年來尊信免雷皇神尔祈奉里都漏事無

久落事無久法乎良術乎良盡斗之可御命乃限里尔漸々尔羸

瘦反坐之天此乃明治 年月日 乃日乃黄昏尔年 齡 尔之春

雪乃消由雷如久身退坐之波最毛最毛哀之久惜之支事尔奈

親族波常住不變毛登思憑米雷心可良愁呻吟比偲奉良雷隨

尔殯室尔遷奉利天 幾日 乃間其乃事仕奉利之可世間乃定列

在禮婆然天之可有伎奈良親族相議里天甚惜伎御亡骸乎搔
舉介互清潔支白妙乃衣取著世和介支相褥取敷支互其乃上
尔坐世奉利敷妙乃枕乎合卷世白絹以互御面乎覆比禮服紐
乃及年頃愛賜比之種々乃珍玩物乎取添反厚衾指覆比常磐
乃松乃廣支板以天所作雷棺仁歛米白伎狹布乎取裝比大輦
尔取載世奉里所出立雷行路乃威儀波所榮雷物斗五百枝眞
神尔白幣青幣乎取垂天最先尔持捧介打靡久物斗白旗赤旗
采二方尔立列祿綠深支若松尔時乃菓乎鬚籠仁入礼天取著

介開丹保布梅枝尔鳥乃名乃作物乎結著介左右尔持並倍樂

人等尔行樂樂介志又秉炬以天道邊乎照之近親乃者等近支

守護斗仕奉利其乃他諸前尔列並美後尔立並美送奉娘久所

聞食之天後毛輕久行先毛安久出立之天冥府尔到里坐世然

到里坐之都家乃靈屋尔坐須汝我分魂乃神斗共尔守幸反賜

比天現世仁在雷親族兄弟等乎婆與母津國與利荒備疎備來

牟禍事尔相率里相口會事無久幸久眞幸久遠長尔令立榮米

賜反斗鶉成寸伊波比回利誅辭白平介久安介久所聞食

世斗白須

右作例を示すのみなり。作文の便に随ひてあるハ前を
後シに回し、上を下に旋ハタラカしなむ、活機運用するも、作者の才力
ふまかすべし。又、喪家及亡人此品位、或ハ齋主の等級ふよ
りて、敬言カハふ、輕重比別あり。又、男女、老少ふたりて、用語の異
るこやなむ常ふ多し。かふらむ、其の分相應ならむこや
を要やすべし。然あれども、物ふ長き短きあり。事ふ輕き重
きあり。是も亦精ハしきや粗きや無くあるべらむ。故今、

終祭詞中、誄辭中の略例を舉げはた、其を廣く活用ハタラのすべ
き略法を注して、事ふ臨みて、便ハらむらむるを免むべし

終祭詞

發語姓名 主乃靈前ニ白左久ニ主波毛素與利朴直ニ之謹厚

久坐之天ニ上ニ交利天阿諛ニ雷事無久ニ下ニ對比天驕侈ニ雷事無

久ニ正實乎專ニ登之國乃為家乃為波言布毛更奈利ニ負持互雷職

掌尔心乎盡之ニ許多乃功績乎立賜比遠近尔其乃名所聞之有

德人ニ尔奈坐ニ之介然雷尔ニ年号月日乃日病尔因利天死去利坐

○葬儀式別記

○二十

之奴シタルハ最毛イトモ惜之アタラシキ伎事コトニナモカ尔レバ奈斯サキニ在マツリ礼婆リシ前尔ゴトク告奉利之トク如久トク謚トク

號ト登謚號オクリナ乎負世奉利天今日之毛終乃御祭仕奉良久御酒御ミ

食種ケ乃物供奉良久平介久安介久所聞食世登白須如此天カクテ

是與利主我入坐左牟幽界波之八百萬神乃隱在寸所尔之山ニシテ

川草木照渡里此乃世尔胜利天美麗之支所又事足良比物備モノ

在利天總倍天自由自在奈雷所又政事乃正之久嚴之伎所登ト

所聞礼婆一向尔思定米天伊行支到利坐世然到坐之奈主我ガ

平日乃行狀斗功績斗乎賞米賜比愛賜比天正之支神乃列尔ニ

入賜比天永久久幸福乎得志米賜布陪然神斗成坐之奈前尔ニ

鎮奉利之分靈乃神登共尔家乃守護神斗坐之天内尔毛外尔ニ

毛禍事無久子孫乃八十續伎常馨尔今立榮米賜及又出立多ク

世奉良牟行粧物整調礼婆誘導奉良牟仕奉良久所聞食之諾ヒ

賜比且御心毛安久出立知坐世登白須ス

○發語ハ世小以枕言なり。こまハ大山大川なや大や以オホ

ふ語の上ふつける姓ふと空計布物多尔なや冒らせ小野ノ

小原なや小や以ふ語の上ふつける姓ふ八玉簾乃打麻乎ヲ

なぞ冒らせオホヤマヲヤマ大山小山なぞ山やヤマいふ語のつけるフシヒキふハ足引
 乃オホノぞ冒らせ大野小野なぞ野やノいふ語のつけオホノるふら夏草
 乃オホノぞ冒らすモシヤエする類をいふ。又近藤伊藤なぞ字音もて稱ふ
 るハ其の本藤原より出でたる姓なれば其の藤へかけて
 荒妙アヲタカ乃ノぞ冒らせてトと。此の他字音もて稱ふるものこれ
 小准ふべし。總べて枕言ハ其の人を尊び敬ふ意おて冒ら
 するなり。③主これハ廣く用ゐてと。其の人品ふとりて
 高き人ならキミウシば君大人若子婦人ハオホトジヒメヲトメ大刀自姫オホトジヒメヲトメ處女なぞ稱す

べく直人オホヒトならむオホヒトふハ翁オホキミ叟オホキミ主又幼童オホキミハ子婦人ハトジヒメヲトメ刀自姫オホトジヒメヲトメ子
 なぞナゾ撰センび用ヨウうべし。朴直オホキミ天アメ之ノ謹厚オホキミ久ハ實直オホキミ天アメ雄ヲひ之ノ久
 健剛ケンコウ久ク質直シツチク久ク深沈シンシン天アメ之ノ賢才ケンサイ久ク謙遜ケンソン里リ天アメ聰達オウダツ久クなぞ其の
 姓質セイシツ小隨コズイひて書カキくべし。③上小交利オホキミ天アメ云く驕侈オホキミ留事ルシ無久
 り其の人オホキミ小従コズイりてオホキミり小事オホキミ登ノリ毛モ惡アク之ノ斗ト見ミ礼婆レハ固カタ久ク避ヒ介ケ善ヨク
 之ノ登ノリ思オモ反ヘ婆ハ進ス美ミ天アメ就ツ伎キ好オホキミ惡アク愛憎オヒキミ乃ノ間マ尔ニ惑マド布事フコト無ナク久クなぞ
 替へてもカヘふべし。其の人オホキミ仕品行シキハヤウや功德オホキミや小應コオウへてカヘいづ
 まマふも有アるべし。④御酒御食ミカヅミツ云くハ上の諸祝詞オホキミを参考カンカウせ

また、供物の品も従ひて、粗くも精しくも書くべし。⑤幽界云くハ上の祝詞と精しく此ハ粗し。時子適子て、つぎも書くべし。以下も同トく意得べし。

誄辭

哀オキナシキヤ之シキヤ伎ヤ 姓名オキナシキヤ 翁オキナシキヤ乃ナ靈オキナシキヤ前マヘ尔ニ白マラサク左サ久ク翁オキナシキヤ波ハ毛モ先サキ代ツヨク乃ノ 姓名オキナシキヤ翁オキナシキヤ乃ナ長チガハシキヤ

男オキナシキヤ尔ニ坐マシ之シ天テ幼イト少クニ與ヨリ利ヨク能ク久ク父チハ母ニ尔シ孝ヒ比ソノ其ノ乃ヲ教シ訓ヘ乎ク守リ利ヒト成ト長ナリ

利リ天ハ能ヨク久ク親カラ族カ友ト尔ニ親ハ睦ツ比ビ萬マ忠マ實メ之シ會シ坐マシ之ケル邪イニシ去イニシ之ニ年号月

波チ乃ノ翁オキナシキヤ乃ナ後アト乎ツ繼ギ伎キ兵イヘ家ナリ業ヲ乎メ修メ米イハ家マシ政ト乎ヘ齊ト及ヘ年号月

父チ乃ノ翁オキナシキヤ乃ナ後アト乎ツ繼ギ伎キ兵イヘ家ナリ業ヲ乎メ修メ米イハ家マシ政ト乎ヘ齊ト及ヘ年号月

尔ニ任マケ良ラ礼レ 年号月 職名 尔ニ舉ア介ゲ良ラ賜マ比ヒ天テ少イ毛カ私ワ無シ久ク萬ヨロ公ツ平オ

尔ニ直ナ久ク正ツ之シ久ク其ノ乃ノ職メ乎ラ盡ツ之シ賜マ比ヒ之カ里サ人ト波ハ更ナ奈リ利チ近カ隣キ乃ヒト人ト

尔ニ至イ雷タル迄チ尔ニ其ノ乃ノ勤メ勞ラ伎キ乎ホ賞メ其ノ乃ノ功メ德ト乎シ慕シ奉リ里キ伎キ然シ雷カル

尔ニ吉ヨキ事コト尔ニ凶マカ事コト伊イ次ツ久ク世ヨ乃ノ中ナカ登ト天チ 年号 乃ノ春ハル乃ノ末スエ與ヨリ利ユク無ク端ナ

久ク病シ尔ニ罹ヒ里カ甚シ久ク苦ク惱ル美ミ坐マシ之ケ介ケ親ウ族カラ兄ハ弟ラ打ウ集ツ比ヒ天テ朝アサ暮ユフ不サ去ラズ

扶助タマ介ケ看マ護モ良ラ比ヒ醫ク藥ス方マ術ジ乎ハ始ジ米メ有ア利リ登ト有アル雷コト事ド等モ遺ノ雷コト事ナ無ク

久ク盡ツ之シ志カ可モ其ノ乃ノ効シ無ク久ク遂ツ尔ニ 年号月日 乃ノ日ヒ乃ノ明ア暗ク尔ニ 年 齡

乎チ此コ乃ノ世ヨ乃ノ限カ之リ利シ登ラ天ミ逝シ水ノ乃ノ逝キ支チ天カ還ハ良ラ奴メ八ヤ十ソ垵ガ路ニ尔ニ隱カ去レ尔ニ

○葬儀式別記

○二十三

坐^シ之^ハ志^カ悲^シ之^ト登^モ痛^シ之^ト登^モ將^イ言^ハ爲^ス方^ニ無^キ伎^{コト}事^ニ奈^モ斯^カ在^レ礼^バ婆^ウ親^カ族^ラ波^ハ
波^シ之^ハ志^カ悲^シ之^ト登^モ痛^シ之^ト登^モ將^イ言^ハ爲^ス方^ニ無^キ伎^{コト}事^ニ奈^モ斯^カ在^レ礼^バ婆^ウ親^カ族^ラ波^ハ
暗^ク夜^ニ尔^ノ燈^ヲ乎^カ消^ス之^ト渡^リ尔^ノ船^ヲ乎^カ失^ス比^シ之^ト如^ク久^ク愁^ヒ惑^ヒ比^シ且^ニ哀^シ慕^シ布^ル尔^ノ
不^レ忍^ル留^ル故^ル尔^ノ暫^ク時^ヲ毛^モ登^ル殯^ル室^ニ尔^ノ坐^ス世^ニ奉^ル利^テ天^ノ其^ノ乃^ハ事^ヲ仕^テ奉^ル利^シ志^カ可^ク
世^ノ間^ニ乃^ハ定^ム例^ヲ有^ル礼^ヲ婆^ノ甚^ク惜^ム之^ト伎^{コト}御^ノ亡^ガ骸^ヲ乎^カ搔^テ舉^ゲ介^テ天^ノ法^ヲ乃^ハ隨^フ尔^ノ取^ル
歛^ル米^ヲ所^ニ出^ス立^ル雷^ノ路^ヲ途^ヲ乃^ハ行^ク粧^ヲ波^ノ所^ニ榮^ル物^ヲ斗^ニ真^ニ神^ニ打^テ摩^ル久^ク物^ヲ斗^ニ赤^ク旗^ヲ
白^ク旗^ヲ其^ノ乃^ハ他^ノ種^ノ々^ノ乃^ハ物^ヲ持^テ列^シ並^ニ米^ヲ天^ノ近^ク親^ヲ等^ヲ御^ノ供^ヲ仕^テ奉^ル里^ニ天^ノ御^ノ墓^ヲ
所^ニ反^シ送^ル奉^ル良^ク久^ク所^ニ聞^ク食^ヲ之^ト諾^ス賜^ヒ比^シ天^ノ後^ニ毛^モ輕^ク久^ク所^ニ出^ス立^ル世^ニ賜^ヒ反^シ登^ル
誅^ス辭^ヲ白^ク之^ト賜^ヒ波^ノ久^ク白^ク須^ス

○哀^之伎^{コト} 耶^ハ 此^レも發^ス語^{ナリ}なり。老^シ少^キ中^ニも小^シ用^メてと。又^ニ其^ノ

人^ノ品^ヲふりて、貴^キ人^ナらば、畏^ル伎^{コト}耶^ハもみまべく、又^ニ婦^ノ人^ノ
幼^ク稚^キな^ラば、愛^ス之^ト伎^{コト}、勞^ス之^ト伎^{コト}、惜^ム之^ト伎^{コト}な^ラば、[○]長^ク男^コ

ま^ハ、其^ノ人^ノ品^ヲふりて、次^ノ男^ヲ、三^ノ男^ヲ、長^ク女^ヲ、次^ノ女^ヲ、三^ノ女^ヲ、[○]長^ク男^コ
もあ^ルべし。成^リ長^ク利^テ天^ノ云^フハ、婦^ノ人^ナらば、裁^テ縫^フ比^シ乎^カ始^メ米^ヲ總^ス

倍^ス天^ノ女^ノ業^ヲ尔^ノ委^ス之^ト久^ク平^ク素^ク尔^ノ起^ル居^ル進^ル退^ル婀^カ娜^カ尔^ノ行^ク狀^ヲ正^ス之^ト久^ク坐^ス
之^ト介^スな^ラば書^クべし。○職^名ハ事^ヲ多^クくして、こ^ノ不^レ盡^ル難^シ

けき^バ取^リ別^レけて下^ニ辨^スふべし。少^ク毛^モ私^ニ無^ク久^ク云^フハ、神^ノ官^ナ

らバ、平常尔身乎清淨尔之、心乎誠尔之、皇神乃御前乃御
事波更奈利一切天乃社務乎懈怠雷事無久倦事無久國乃
爲君乃御爲登勤勞仗賜可比之なごあるべし。教師ならむ小
ハ、學生乎愛牟事生子乃如久丁寧尔教反深切尔導仗天、緩
事無可利之なごあるべし。又、婦人ならバ此乃家尔嫁利之
（高き家あらバ入興して）やみふべし。姓名乃妻斗成利給
比、妹背乃道乎違布雷事無久心操貞之久心穩之久後奈可
家政乎補翼介天、子孫乃蕃息里榮由倍掟賜比之なごある

べし。又、人々の功績ハ、廢きたるを興し、絶えたるを繼ぎ、あ
るは、貧困を惠み厄難を救ひ、或ハ國ハ功あり、里ハ功あり
なご、限なく多し。其くハ差別を立て、書きなすべし。總べ
て、其の人其の職ハ應へて、詞を撰ぶを要やすべし。④病尔
罹利云くハ急病ならバ、卒然尔病卧之坐之介、其事與此事
與登立走里其所與彼所與登按摩里都呻吟布間尔昏絶里
坐之天、喚倍呼叫倍掟御答反左爲賜反毛波受なごあるべく、久
病ならむふら無端久病氣附支坐之豆、大久苦惱美坐波

有良邪里之月尔日尔異尔衰反行支坐之介婆親族波心乎痛
可朽毛、
米胸乎病美醫師尔請比神尔祈利有限利乃事波盡之可
其乃效驗無久年尔疲瘦礼坐之都なやあるべしなを病
ハ千態萬狀小てこ、み盡すべきみあらざまば其の事狀
を尋ねて、何みも書きなすべし。⑤逝水乃逝伎天不還奴云
く此の譬諭言ハ朝霜乃消雷如久やも夕月乃消雷如久や
も春雪乃消雷如久やも時み應へても言ふべし。⑥親族波
云ハ急病ならバ夢現分別難祢天御頭邊尔匍匐比御脚邊

尔ハハ比悲歎伎都礼其乃詮無介礼なやあるべし長病な
らバ年數支御病尔波在利都争一回波登請祈美侍里都御
命乃限利尔耶愁歎伎都礼なやあるべし幼稚ならバ今日
波與利園生乃花乃美之伎誰尔可見世牟明日波與利種く乃珍
翫物波誰尔持可世天慰斗牟久利言爲都く哽咽歎伎礼杵其
乃詮無介礼老人ならむみハ阿波礼老翁與他人波命長之
登言合反礼親族乃上尔天面變利世遠永尔坐世可思比乞
祈牟心可良猶哀慕比奉雷尔然哀慕比奉里都礼なやある

べし。甚惜之支 御亡骸乎云々、又所出立 雷路途 乃行粧波云
くハ、上文を参考へて、時の宜き小従ひて、何様カサマふも書くべ
きなり

官職訓例

官職の名ハ、物語ものを始免、其の他乃假字カナがきも、其
も、字音もてかけろも多かるハ、古くも大方ハ、然稱ナへ
ものや見えたり。さきぞ、和名抄其の他、其書ミふも、皇國語
もて注したるも少からざれば、又、それみ、従らざるこや
を得ざるなり。祝詞、誄辭シなど、總べて、皇國語もてとむも
のなれば、官職の名も、そまふ従りて訓まゝをいさきこや
なり。然るふ、今の、大御代や成りて、新ニ設け賜ひし名や
もの中ふハ、皇國語もてハ、訓難きもの、亦多あり。此の故
ふ、今試みふ、其の訓例を舉ぐる事左乃如し

官名

官省 臺職 坊寮 司監 署府

以上皆ツカサなり

神祇官カミミツガサ 大政官オホロジツツガサ

中務省ナカムツツガサ 式部省シキブツツガサ

治部省チカブツツガサ

民部省タミベツツガサ

兵部省ヒムベツツガサ

刑部省ケイベツツガサ

大藏省オホクラツツガサ 宮内省ミヤノウツツガサ

彈正臺タマシヅツガサ

中宮職ナカミヤノツカサ 大膳職オホカゼノツカサ 修理職シユリノツカサ 左京職サキヤノツカサ 右京職ミナミヤノツカサ
 春宮坊ハルミヤノツカサ

齋宮寮イハヒミヤノツカサ 大舍人寮オホトネリノツカサ 圖書寮ツフミノツカサ 内藏寮ウチノクラノツカサ 縫殿寮ヌイドノツカサ 陰陽寮イナノツカサ

内匠寮ウチノタビノツカサ 雅樂寮ウタマヒノツカサ 玄蕃寮ホウシヤノツカサ 諸陵寮ミヤノツカサ 主税寮チカラノツカサ 掃部寮カニモリノツカサ

木工寮コノシノノツカサ 大炊寮オホイノツカサ 主殿寮トノモリノツカサ 典藥寮ノスリノツカサ 兵庫寮フクナガノツカサ 右馬寮ミナノツカサ

左馬寮ヒガシノツカサ 主神司イソノツカサ 齋院司イツキノツカサ 隼人司ハヤヒトノツカサ 囚獄司ヒトリノツカサ 織部司オリベノツカサ 正親司オホササギノツカサ

内膳司ウチノカシノツカサ 造酒司サケノツカサ 主水司ヒドドリノツカサ 東市司トウチノツカサ 西市司ニシノツカサ 鑄錢司シユゼンノツカサ

主膳監ウチノカシノツカサ 主殿署ウチノカシノツカサ 主馬署ウチノカシノツカサ

近衛府チカエノツカサ 兵衛府ヘイヱノツカサ 衛門府ヱモンノツカサ 大宰府オホミツノツカサ 鎮守府チヌメルノツカサ

又
 侍從局オモヒトノツカサ 内舍人局ウチノトネリノツカサ 内記局ウチノキノツカサ 監物局オモシヤノツカサ

校書殿ウチノカシノツカサ

右古書ふ見えたる官名の訓例なり。今世の官名も此小例
 ひて訓みを考ふべし

今世官名

大政官オホサシノツカサ 内務省ウチノカシノツカサ 外務省ソトノカシノツカサ 大藏省オホクラノツカサ 陸軍省チカヘノツカサ 海軍省ウチノカシノツカサ

文部省フミノツカサ 教部省ウチノカシノツカサ 工部省ウチノカシノツカサ 司法部ウチノカシノツカサ

開拓使ヒツツノツカサ

式部寮	造幣寮	租稅寮	戶籍寮	土木寮	紙幣寮
出納寮	統計寮	檢査寮	驛遞寮	記録寮	兵學寮
軍醫寮	主船寮	水路寮	工學寮	鑛山寮	鐵道寮
燈臺寮	電信製作寮	明法寮	警保寮	圖書寮	
造兵司	武庫司	機關司	測量司	内膳司	内匠司
調度司	文書局	會計局	庶務局	地理局	測量局
	商務局	民法院	參事院	元老院	侍從職
					式部職

裁判所

職名

大臣 納言 參議 辨外記 史
 伯卿 尹 長官 大夫 頭 正 奉膳 首 大將
 督 尚侍 帥 將軍 守 大領 令
 以上皆カミなり
 副輔 弼 次官 亮 助 中將 少將 佐 典侍
 貳介 少領 扶
 以上皆スケなり

祐丞 忠判官 進將 監尉 掌侍 監軍 監

椽 主政 從

以上皆マツリゴトビトなり

史 錄 疏 主典 屬 令史 將曹 志典 軍曹
目 主張 書史

以上皆佐官

今案ふるみ上のマツリゴトビト小例ひて、コト、リビト空訓まゝなり

右古書不見えたる職名の訓例なり。今なきこれ小例ひて訓を考ふべきなり

今世職名

大政官

大政大臣 大臣 參議 內史 外史 主記

元老院 參事院

議長 議官 議生 書記官 書記生

諸省

卿 輔 丞 錄

海陸軍省

○元帥 將 佐 尉 曹 軍曹

文 部 省

○督學 大監

司 法 省

○判事 檢事 解部 屬 檢部

宮内省

○侍從 侍從番長 典鑿 侍鑿 馭者

開拓使

長官 次官 判官 幹事 主典

府

知事 參事 典事 屬

縣

令 參事 餘ハ上小同ト

諸寮

頭 助 屬

軍醫寮

○軍醫

主船寮

○匠司 師

明法寮

○法官

警保寮

○警視 警部

諸司

正 令史

機關司

○監 機關士

裁判所

長 評事 主理 錄事 管獄 書記

水兵本部

諸司小同

提督府

提督 知港事 典

大學校 師範學校 中學校 小學校 女學校

博士 教授 助教

諸職

長官

警視廳

警視總監 警視 巡查

諸局

長 幹事 書記官

諸官省通用

書記官

御用掛 何等屬 何等出仕 雇

區務所

○華儀式別記

○三十二

長書記

郡役所

戸長役場

長筆生

皇典講究所

總裁 幹事 司計 書記 舎長 取調係 勸誘係

費務係 圖書係 用度係 筆生

文學部

作業部

長教授 助教

同分所

長理事 委員 教授

大教院 中教院 小教院

長副長 庶務課 會計課 書記課

神道本局 分局 支局

神道管長 長 幹事 庶務課 職員係 會計統括

會計課 取調係

教職

教正 講義 訓導 試補

神社

官幣社 國幣社 府社 縣社 郷社 村社

神官

祭主 官司 祢宜 主典

祠官 祠掌

諸職通用

勅任 奏任 判任

左 右 大 中 少 權 兼 准 等あり

左大臣 右大臣 左大辨 右大辨 左中辨 右中辨

左少辨 右少辨 大輔 少輔 權大書記官 權少書記官

記官 參議兼○○卿 准奏任 准判任

諸職之を例やすべし

併合訓例

省

内務卿 内務大輔 内務少輔 内務大丞 内務大録

内務權大録 内務中録 内務權中録 内務少録 内務

權少録

諸省之ふ倣へ

寮

式部頭 式部權頭 式部助 式部權助 式部大屬 式

部權大屬 式部中屬 式部權中屬 式部少屬 式部權

少屬

諸寮之小倣へ

司

造兵正

造兵權正

造兵大令史

造兵權大令史

造兵

中令史

造兵權中令史

造兵少令史

造兵權少令史

諸史之小倣へ

此の他、卑官小職、限り無く多し。又、明治此御世の始、行政官を置きて、議定、參與を置のま、刑法、軍務、會計等の諸官を置きて、知事判事を置のま、より以來、同トキ五年小至り、諸官、諸職の廢置少らば、其より以後も、なほ改正あり。此

等、皆、官員あり、人々其履歷スミカ關スミカる事をスミカやも、今探ぬるスミカ違スミカあらば、そハ、こスミカと小例スミカひて考へてバ、大方ハ事足りぬべし

位階

品位

正

從

上

下

勲等

位階ハ之小倣ひて訓むべし

位署書式並訓例

左近衛大將從三位兼大納言行民部卿清原真人夏野
檢非違使別當參議行中宮大夫兼右衛門督伊豫權守藤原

朝臣朝成

参議兼内務卿陸軍中將從六位勲一等伯爵 姓名

准陸軍大佐兼四等出仕從五位勲四等 姓名

右古今書式の例を擧ぐるのみ自餘ハ推考すべし

訓例大なる此の如し。其の中、音便を多し、名目な
まばなり。總べて名目ハ呼び易く、聞き好きを主とすれば、
古人も深く心を用ゐて、考定をたすものや見えたり。祝詞、
誄辭など、みハ良しうらぬ如くあれども、それを正言もて訓
まむハなるべし。みとろしからびや知るべし。

